

2022 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [スミス 頼安]

学年・組・番号 [3 年 E 組 9 番]

研究課題： 社会情勢による観光客の動向と新たな対馬の展開

(英文) Tourist Trends Due to Social Conditions and New Developments in Tsushima

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

前年度の「越境対馬 2021」では比田勝、厳原で聞き取り調査を行った。韓国人観光客にとって対馬は「気軽に行ける隣の海外」であり、2018 年には 40 万人以上が訪れ賑わいを支えていたが、2019 年 7 月の日韓関係悪化に伴う日本旅行ボイコットなどの世論を受けて急減し、直後の新型コロナウイルスに追い打ちをかけられゼロになった。日本と朝鮮半島の間にある対馬は、歴史的にも外国との交流が多く、貿易や観光業なしでは経済が成り立たない。対馬の人々は日韓関係や感染症という予測不能な現実を突きつけられ、韓国人旅行者の激減による観光収入減少と地域社会の経済活動衰退、日本人観光客増加による新たなニーズの出現、今後の欧米をはじめとする世界からの旅行者受け入れ計画など、この数年で次々と臨機応変な対応を迫られてきた。一筋縄ではいかない葛藤をいかにしてコロナ禍を乗り越え、新たな観光客の受け入れ対応と拡大を行うか、現地において調査を行う。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

以前の厳原や比田勝の土産物店では、韓国人観光客のニーズに合わせて対馬とは関係のない日本の一般的な土産物や医薬品、日用雑貨などを揃えたが、Go to travelなどで増加した日本人観光客に向け、土産物を対馬の名産品にするなど、目的を異にして訪れる観光客に対し、島の文化に接する機会を増やして持続的に呼び込む対応がなされていた。また、佐須奈集落での聞き取りでは、人で溢れていた商店街がシャッター通りになったことから、商店街 36 店舗や島おこし協働隊が集まり、日韓両国の向き合い方を意識しながら、韓国だけでなく国内外から観光客を誘致して再活性化させ、国際色豊かな島にするための発信方法や交流イベントなど再開準備が進められていることが分かった。

2022 年 11 月、博多-釜山を結ぶ日韓航路は復活したが、釜山-比田勝間は再開されていない。韓国と対馬を直接結ぶ国際航路によるインバウンド効果は地域社会の安定性に直接影響を及ぼしている。次回は比田勝航路が再開して活気を取り戻した対馬を訪れ、調査したい。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3 年 E 組 9 番 スミス 頼安

研究分担者 3 年 E 組 8 番 鈴木 涼之介 3 年 E 組 25 番 山崎 悠太郎

担当教諭 柿沼 亮介 (受給額：30000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上